

スポーティ! 運転を楽しめる! 格好いい! を追求!!

コンパクトSUV

C-HR 誕生!

日刊自動車新聞

発行所
日刊自動車新聞社
東京都港区芝大門1丁目10番11号
芝大門センタービル3階
電話 東京 (03) 5777-2351代表

トヨタ

新型
C-HR

特集号



1.2ℓターボ4WD

力強い足回り、スピード感ある

ライフスタイルで選べる2タイプ

30.2km/ℓ
燃費の1.8ℓ
HV

走る楽しさ
1.2ℓ
ターボ4WD

ボディを表現

SUV(スポーツユーティリティビークル)の世界にもコンパクト化の波が押し寄せるなか、トヨタが魅力的な一台をデビューさせた。コンパクト・ハイライダー、あるいはクロスハッチ・ランナバウトを語源とするC-HRは斬新なスタイルに加え、キビキビと走れるSUVとしてデザイン性とパフォーマンスを両立。4代目プリウスから採用されたトヨタの新プラットフォームであるTNGA(トヨタ・ニューグローバル・アーキテクチャー)の第2弾として、そのメリットを存分に感じられるクルマに仕上がっている。ハイブリッド車とダウンサイジングターボ車が用意され、好みに応じた仕様を選べるC-HR。アクティブかつ本物感を重視する人も満足できるSUVといえるだろう。



1.8ℓハイブリッド

TNGAがもたらす高い基本性能
トヨタセーフティセンスP、6エアバックを全車標準装備

TNGA—もっというクルマをつくろう

コンパクトSUV

C-HR

4代目プリウスから採用されたTNGA(トヨタ・ニューグローバル・アーキテクチャー)は、新開発のプラットフォームを主体にクルマの基本性能を大幅に引き上げることを目的とした取り組みだ。その第2弾となったC-HRも「気持ちいいハンドリング」、「質感の高い乗り心地」、「安全と安心」といったキーワードに沿って開発が進められてきた。サスペンションのフリクションを徹底的に低減し、ボディ剛性を大幅に高め、さらに低重心構造も加わって、乗り心地や静粛性と操縦安定性を高い次元で両立。衝突安全性能も一段と向上し、そこには「もっというクルマをつくろう」という思いが込められている。C-HRのハンドルを握り、少し走っただけでもその進化を体感できるはずだ。



◆◆◆◆ オプションでもっと魅力的に ◆◆◆◆

ウインカーやハザードランプを作動させると、12灯のLEDランプが内側から外側へ流れるように光る「シーケンシャルターンランプ」をGグレードおよびG-Tグレードにオプションで設定。シートもブラックの本革仕様がGおよびG-Tにオプションで用意される。また、先進安全機能のトヨタセーフティセンスPは全グレードに標準装備されるが、さらにGおよびG-Tには斜め後方の死角を走るクルマを検知するブラインドスポットモニターが標準装備され、後退時に車両接近を知らせるリアクロストラフィックアラートもオプションで用意されている。

シーケンシャルターンランプ

ブラックの本革仕様



足元イルミネーション

トヨタC-HR主要諸元表	ハイブリッド 2WD		ガソリン 4WD	
	G	S	G-T	S-T
駆動方式	FF		4WD	
車両重量 kg	1,440		1,470	
最小回転半径 m	5.2		5.2	
燃料消費率 JCO8モード km/ℓ	30.2		15.4	
エンジン型式	2ZR-FXE		8NR-FTS	
エンジン総排気量 cc	1,797		1,196	
エンジン種類	直列4気筒DOHC		直列4気筒DOHCインタークーラー付ターボ	
使用燃料	無鉛レギュラーガソリン		無鉛レギュラーガソリン	
エンジン最高出力 kW(PS)/rpm	72(98)/5,200		85(116)/5,200~5,600	
エンジン最大トルク N・m(kgf・m)/rpm	142(14.5)/3,600		185(18.9)/1,500~4,000	
燃料タンク ℓ	43		50	
モーター型式/種類	1NM/交流同期電動機		—	
モーター最高出力 kW(PS)	53(72)		—	
モーター最大トルク N・m(kgf・m)	163(16.6)		—	
動力用主電池種類	ニッケル水素電池		—	
個数/接続方式/容量 Ah	28/直列/6.5		—	
全長×全幅×全高 mm	4,360×1,795×1,550		4,360×1,795×1,565	
ホイールベース mm	2,640		2,640	
トレッド フロント/リア mm	1,540/1,540	1,550/1,550	1,540/1,540	1,550/1,550
最低地上高 mm	140		155	
室内 長×幅×高 mm	1,800×1,455×1,210			
乗車定員 名	5			
ステアリング	ラック&ピニオン			
サスペンション フロント/リア	マクファーソン・ストラット式コイルスプリング(スタビライザー付)/ダブルウィッシュボーン式コイルスプリング(スタビライザー付)			
ブレーキ フロント/リア	ベンチレーテッドディスク/ディスク			
トランスミッション	電気式無段変速機		Super CVT-i(自動無段変速機) [7速スポーツシフトマチック付]	
タイヤ	225/50R18	215/60R17	225/50R18	215/60R17

オプション装着により数値が変わります。燃料消費率は、定められた試験条件のもとでの値です。使用環境、運転方法により異なります。詳しくは販売店にお問い合わせください。



C-HR



◆低重心パッケージとボディ剛性

TNGA(トヨタ・ニューグローバル・アーキテクチャー)の特徴のひとつである低重心パッケージにより、コンパクトSUVのレベルを超えた高い操縦安定性を実現したC-HR。さらにボディ接合部への構造用接着剤の使用や、環状骨格構造の採用などにより剛性を大幅に向上させ、大径タイヤや4WDシステムにも対応。意のままに走れる性能を確保している。サスペンションも減衰力を吟味したSACHS(ザックス)社製のショックアブソーバーを全車に標準装備し、大径スタビライザーの採用などで操縦安定性と乗り心地のよさを両立。ワンランク上の走りを堪能できる。



高剛性ボディと高強度キャビン



ハイブリッド車専用2眼メーター

◆トヨタセーフティセンスPを標準装備

ミリ波レーダーとカメラで常に前方を監視する最新の先進安全装備「トヨタセーフティセンスP」を全グレードに標準装備。歩行者検知機能付きの衝突回避支援型プリクラッシュセーフティ、全車速追従機能付きのレーダークルーズコントロール、車線からのハミ出しを知らせるレーンデパーチャーアラート、夜間の安全走行を支援するオートマチックハイビーム機構など、最先端の予防安全機能が備わる。また、エアバッグも運転席と助手席に加え、サイド&カーテンエアバッグを含む6エアバッグを標準装備。予防安全性能、衝突安全性能ともに世界トップレベルの充実度と見ていだろう。



◆インテリアデザイン

シックに仕上げられたインテリアも好感が持てる。メーターやスイッチ類をドライバーへ向けた「Me ZONE」の考え方により操作性を確保し、長距離運転でも疲れにくいレイアウトとなっている。ダッシュボード回りは広がり感のあるデザインに加え、金属調オーナメントやピアノブラック塗装によりプレミアム感を演出。使用するマテリアルを2種類に絞ることによって統一感のある仕上がりとしている。ホールド性に優れたスポーティシートは運転姿勢をしっかりと確保してくれると同時に、座ったときの質感にもこだわった作りとなっている。シート地はブラック基調のファブリック素材に加え、本革を配した仕様も用意。囲まれ感のあるリアシートの落ち着いた空間も心地いい。

Engineer's Voice



トヨタ自動車
Mid-size Vehicle Company
MS製品企画 ZE チーフエンジニア
小西良樹さん

ダイヤモンドの造形を各所にとり入れたデザインや、大径タイヤを際立たせたスタイル、クーベのようなリアスタイルがC-HRの特徴です。タイヤ径が全高の45%とほぼ半分の高さを占めることで力強い印象を与え、一方で25度まで寝かせたリアウインドウがスタイリッシュなシルエットを形作っています。その優れたプロポーションをまず見ていただきたいですね。

また、「我が意の走り」を実現するためにパワートレインを熟成し、とくに1.2ℓターボは4WDシステムも含めて走る楽しさを実現できたと考えています。インテリアは上質感にこだわり、シックで落ち着いた方向で仕上げましたが、その本物感をぜひショールームなどで実際に見て触れて、確認していただきたいですね。

意のままに走る!

「我が意の走り」を実現すべく、C-HRは3つのポイントを重視。ドライバーの操作に対してクルマが即座に反応する「レスポンス」、ドライバーの操作量に対してクルマが忠実に応答し修正が必要ない「リニアリティ」、そして車速、横G、路面状態等に左右されずにクルマの応答が常に一定な「コンシステンシー(統一感)」を追求。そのためにボディやサスペンションを煮詰め、ヨーロッパ各国の山岳路や一般路に加えてドイツのニュルブルクリンク・サーキットも走らせて性能を評価。走行時のコントロール性はもちろん、前方視認性なども考えて開発を進めてきた。その結果、意のままに操縦ことができ、安心して走らせることのできるSUVに仕上がっている。



コンパクトSUV C-HR

アイデアスケッチがそのまま実車となったようなC-HR



マルチインフォメーションディスプレイ

大きく鋭い造形の大型ヘッドランプがキーンルクを強調し精悍さと彫刻のような奥深さをあわせ持つフロントスタイルを形作っている。サイドに回るとサイドウインドウのガラスエリアを小さく見せるデザインがスピード感を際立たせ、ホイールアーチからつながる大胆なプレスラインが躍動感を醸し出す。リアドア上部に埋め込まれたドアハンドルのデザインも見逃せない。ぐっと絞りこまれたリアビューは、大きく寝かされたリアウインドウとともにクーベのようにスタイリッシュで美しい。全8色が用意されたボディカラー、つや感にこだわった塗装の仕上がりに注目したい。

どっちも魅力 1.8ℓハイブリッドと1.2ℓターボ4WD

C-HRのパワートレインは2種類あり、1.8ℓエンジンと電動モーターを組み合わせたハイブリッドと、1.2ℓターボエンジンを用意。ハイブリッド車はFF、1.2ℓターボ車は4WDとなる。クラストップの燃費性能を持つハイブリッドはトヨタが熟成してきたハイブリッドシステムTHSIIを搭載し、モーターのみによるEV走行も可能。1.2ℓターボエンジン車は小排気量ながらダウンサイジングターボならではの軽快な走行性能に加え、先進4WDシステムにより滑りやすい路面などでも不安なく走ることができる。ハイブリッド、ターボともに1.4トンを超えるボディを、低速域から高速域までスムーズにストレスなく走らせるポテンシャルを与えられている。



1.8ℓハイブリッド

1.2ℓターボ



◆内外装のダイヤモンドデザイン

C-HRはエクステリアやインテリアの各所に「ダイヤモンド」をモチーフとしたデザインが配されている。大きいところではボディサイドのキャラクターラインとルーファインがダイヤモンド形状を形作っており、細かいところではメーター針や目盛り、スピーカーのグリルメッシュ、スカッフプレート、天井のくぼみなど至るところにダイヤモンド形状を見つけられる。ステアリング上の操作スイッチやヒーターコントロールスイッチなども緩やかなダイヤモンド形状でデザインされているが、周囲の雰囲気や壊すことなく溶け込んでおり、操作感のよさにもつながっている。



◆パッケージと最小回転半径

デザイン優先に見えるC-HRだが、パッケージングも吟味されて快適な室内空間が広がっている。全長を4360mmに抑えながらホイールベースは2640mmが確保され、室内長は1800mm、室内幅は1455mmと大人5人が無理なく移動できるスペースを確保。ラグジュアリーム容量も5人乗り状態で318ℓと十分だ。全幅は1795mmとやや幅広く感じるかもしれないが、取り回しやすさの指標である最小回転半径は5.2mと、小型ハッチバック車と変わらない感覚で運転できる。高めのアイポイントと、Aピラーのスリム化などにより周囲の視認性も確保されている。

